

2017年10月3日

大規模な食料生産システムのなかで、変化する料理と食の行方を考える

 開館40周年記念
 公開講演会 **「料理と人間—食から成熟社会を問いなおす」**

2017年11月17日(金)日経ホール(東京)にて開催！

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、開館40周年記念公開講演会「料理と人間—食から成熟社会を問いなおす」を2017年11月17日(金)に日経ホール(東京都千代田区)において開催する運びとなりました。

本講演会では、生態資源の利用、共食や分配等の社会的機能、味や食感を伝える調理の技術等、食に関わる様々な要素から、文明と文化の境界面としての料理を考えます。



みんぱく 公開講演会
 開館40周年記念 国立民族学博物館公開講演会

料理と人間
 食から成熟社会を
 問いなおす

2017年 **11/17** (金)
18:30~20:40 (開場17:30)

【定員】 **600名** ※要事前申込 先着順
 【参加費】 **無料** ※手話通訳あり
 【会場】 **日経ホール**
 東京都千代田区大手町1-3-7
 日本経済新聞社ビル3階

主催 国立民族学博物館 National Museum of Ethnology 日本経済新聞社

講演1 「ポスト食遷移と新たなフードシステムの可能性」

中嶋 康博 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

第二次世界大戦後、人類は、人工の激増、急速な経済成長、都市化による人口偏在を背景に、「食遷移」と流通システムの大変革を経験することになりました。しかし世紀末を境に、世界のあちこちで人口、経済、都市化をめぐる事情が大きく変容し始めていて、社会は新たな食のあり方を模索しつつあります。環境・倫理問題も踏まえながら、これからの食をポスト食遷移の新たなフードシステムの視点から展望します。

講演2 「イタリア料理からみるグローバル、ナショナル、ローカル」

宇田川 妙子 (国立民族学博物館・総合研究大学院大学 准教授)

料理は文化的なものだが、国や市場などの思惑も関与し、意味や形を変化させてきました。世界的に知られるイタリア料理もその一つであり、現在はスローフードや地中海料理などの言葉とともに注目されています。では、イタリア人自身は実際に料理とどう向き合い、それを通して自らの社会文化とどう関わってきたのでしょうか。食と社会文化の密接な関係と、その意義について考えます。

プログラム

17:30	開 場	
18:30	開 会	品田 卓（日本経済新聞社執行役員・大阪本社編集局長）
18:35	挨 拶	吉田 憲司（国立民族学博物館 館長）
18:40	概要説明	野林 厚志（国立民族学博物館・総合研究大学院大学 教授）
18:50	講 演 1	中嶋 康博
19:20	講 演 2	宇田川 妙子
19:50	休 憩	
20:05	パネルディスカッション	中嶋 康博 × 宇田川 妙子 × 野林 厚志
20:40	終 了	

公開講演会とは

公開講演会は先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、毎年東京と大阪において実施しています。

開催概要

講 演 名	開館 40 周年記念公開講演会「料理と人間—食から成熟社会を問いなおす」
日 時	2017 年 11 月 17 日(金) 18:30～20:40(17:30 開場)
会 場	日経ホール(東京都千代田区大手町 1-3-7 日本経済新聞社ビル 3 階)
講 演 1	「ポスト食遷移と新たなフードシステムの可能性」 中嶋 康博(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
講 演 2	「イタリア料理からみるグローバル、ナショナル、ローカル」 宇田川 妙子(国立民族学博物館・総合研究大学院大学 准教授)
概 要 説 明	野林 厚志(国立民族学博物館・総合研究大学院大学 教授)
総 合 司 会	福岡 正太(国立民族学博物館・総合研究大学院大学 准教授)
申 込 / 参 加 費	要事前申込(先着順)／無料(参加証が必要)／手話通訳あり
申 込 方 法	【申込フォームの場合】国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。 http://www.minpaku.ac.jp/ 【往復はがきの場合】往信面に下記①から⑥と返信面に申込者の住所・氏名をご記入の上ご応募ください。※申込締切日 11月10日(金) ①郵便番号 ②住所(返信用宛名面にも) ③年齢(任意) ④電話番号 ⑤参加者氏名(本人を含め5名まで) ⑥11月17日公開講演会 * 参加申込された方の個人情報は本講演会のみで使用いたします。 * 車椅子をご利用される方は、お席をご用意いたしますのでお申し込みの際に必ずご記載ください。
宛 先	〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1 国立民族学博物館 研究協力課 TEL 06-6878-8209／FAX 06-6878-8479／メールアドレス koenkai@idc.minpaku.ac.jp
主 催	国立民族学博物館・日本経済新聞社



登壇者紹介



中嶋 康博（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

農業経済学、フードシステム論。我が国の農と食のシステムについて経済学的研究を行ってきた。最近では食の安全と信頼関係について産官学連携のフードシステム研究を進めている。著書に『食品安全問題の経済分析』（2004年、日本経済評論社）、編著に『食の経済』（2011年、ドメス出版）、共著に『フードシステムの経済学』（2015年、医歯薬出版）など。



宇田川 妙子（国立民族学博物館・総合研究大学院大学 准教授）

文化人類学、ジェンダー研究。イタリアの民族誌的調査をもとに、家族・親族やジェンダーをはじめ、近年では市民活動や食の問題にも関心を広げている。著書に『城壁内から見るイタリア』（2015年、臨川書店）、編著に『仕事の人類学』（2016年、世界思想社）、『ジェンダー人類学を読む』（2007年、世界思想社）など。



野林 厚志（国立民族学博物館・総合研究大学院大学 教授）

人間と他の動物との関係を、民族考古学、生業研究、物質文化論を通して探究している。近年では、現生人類の特徴としての道具作りと料理に焦点をあてた調査、研究を行っている。著書に『台湾イノシシを追う』（2014年、臨川書店）、『台湾原住民族研究の射程』（2014年、順益台湾原住民博物館）などがある。



福岡 正太（国立民族学博物館・総合研究大学院大学 准教授）

専門は民族音楽学・東南アジア研究。芸術学修士。共著に『ワヤンの広場—東南アジアの人形と仮面』（2004年、千里文化財団）など。